

今回のテーマは「町内会のこれからの“組織づくり”」です。

札幌市には約2,200の町内会・自治会があります。その一つひとつの町内会では、わがまちをより暮らしやすくするために、いろいろな活動に取り組んでいます。

ただ、その活動内容を実際に知る機会は少なく、「他の町内会はこの問題にどう対処しているのだろうか?」と思う方も多いと思います。そこで、実

際に町内会からお話を伺い「リアルな情報」を皆さまにお伝えしようと作成したのがこの「SAPPORO マチトモ通信」です。

今回は、組織づくりの観点から、南区「澄川第七町内会」と西区「農試公園町内会」にお話を伺いました。担い手不足に悩む町内会・自治会の皆さまの取組の参考にいただければ幸いです。

インタビュー①

澄川第七町内会 会長 佐々木 正 さん 総務部副部長 兼 財政部副部長 木村 貴司 さん

町内会組織も「人づくり」が大切です。

～バトンをつないでいけるように、若い世代が参加しやすい組織を目指して～

南区の「澄川第七町内会」では、コロナ禍で思うように活動ができない時期をよい機会と捉えて、町内会の課題解決に積極的に取り組んできました。この2年間の取組などについて、会長の佐々木さんと総務部副部長兼財政部副部長の木村さんにお話を伺いました。

“役員”にこだわらず 担い手の発掘を

「役員が高齢化し、次の担い手をいかに見つけるかが大きな課題だった澄川第七町内会。その打開策として、令和2年度に、町内会サポータークラブ「第七快援隊」を立ち上げたそうです。

佐々木さん 「初めから役員をお願いするのはハードルが高いため、まずはできることをできる範囲で協力してくれる『サポーター』を探そうと考えました。でも、ポスターやチラシで募集しても応募してくれる人がいなくて、半ば諦めかけていました。」

「そんな状況に変化をもたらしたのは、札幌市の町内会アドバイザー派遣制度の支援を受けて実施した、会員全世帯を対象とするアンケート調査でした。町内会の活動や行事、運営などに関するニーズを問う項目に加え、自身が町内会活動をサポートできる可能性について問う項目も設けたところ、回答があった約240世帯のうち、10人ほどの会員が、氏名と連絡先を記入したうえで、サポート可能と回答してくれたのです。」

佐々木さん 「アンケートの効果に驚きました。やってみるものですね。」

「この10人は宝物のようだと思います。さっそく全員と連絡を取り、可能な方には役員数名と直接会っていただきました。その場で伝えたのは、あまり固く考えず、できる範囲で気軽に手伝ってほしいということ。町内会についてざっくばらんに話せたのもよかったですね。最終的には、役員として3人、サポーターとして2人を迎えることができました。」

新たな仲間とともに 新たな取組を

「新たな仲間を迎えたことで、令和3年度には新たな取組が動き出しました。」

佐々木さん 「札幌市の支援を受けて、LINE公式アカウントとホームページを使った電子回覧板の運用を始めました。」

町内会の活動に参加してもらうには、まず、町内会の活動を知り、関心を持ってもらうことが必要です。以前から、若い世代の人たちに情報を届けるには、従来の紙の回覧板や掲示板だけでは難しいと考えていましたが、高齢の役員がほとんどの状況では、電子化を進めることができずにいました。

今回、新たな仲間が増えたことで、木村さんが、電子回覧板の導入に取り組むたいと言ってくれたのです。」

「実は、澄川第七町内会では、5年前にも電子化を目指したことがあります。新陽高校の先生や生徒の協力を得て勉強会を開いたりしましたが、実際の運用には至りませんでした。」

木村さん 「当時は運用を担当できる役員が私しかおらず、一人では限界がありました。でも、電子化の必要性はずっと感じていたので、仲間が増えたこの時がチャンスだと思いました。」

今は、新たに役員に加わった文化広報部長がメインとなり、サポーターと私を加えた3人で運用を担当しています。」

「電子化に対する会員からの反対意見はなかったのでしょうか。」

木村さん 「紙の回覧板も併用しているため、特に問題なく進められています。」

この5年間で、会員側の受け入れのハードルがだいぶ下がったと感じています。スマートフォンの普及率が上がったことや、家族間でのLINEの使用が広まったことなどが大きいと思います。」

「今後は、YouTubeで町内会の情報を流すこともやってみたいと思っていますよね。」

「そう笑顔で話す木村さんを見て、佐々木さんは、これからの町内会について思うことを語ってくれました。」

担い手を育てて次の世代へ

佐々木さん 「何でもまずはやってみたらいい。うまくいかなければ、どう改善するかを考える。それを重ねることで、町内会も変わっていくのではないかと思います。時代やライフスタイルの変化に伴って、町内会も変わる必要がありますよね。」

木村さん 「佐々木会長は、若い人



▲インタビューの様子

会長の佐々木さん(写真左)と総務部副部長兼財政部副部長の木村さん。

の意見もじっくり聞いてサポートしてくれるので、やりがいを持って取り組んでいます。」

佐々木さん 「町内会も組織である以上、人を育てることが大事です。一緒に活動する中で信頼関係を築き、時には任せ、困っている時にはしっかりフォローする。そうやって担い手を育て、次の世代にバトンをつないでいくことが、年長者の責任でもあると考えています。難しいことですが、続けていかなくちゃ。」

「若い世代をオープンに迎える雰囲気と、課題解決に向けて前向きにチャレンジする姿勢が今後の進化を期待させてくれる、澄川第七町内会でした。」

澄川第七町内会

- 加入世帯数：741 世帯
- 町内会費：月額 300 円 / 世帯
- 役員：22 名

大型分譲マンション、賃貸マンションが多く、集合住宅が8割、戸建て住宅が2割を占めており、会員の転入・転出が多い。

役員業務を効率化して負担を軽減しています。～働き世代でも役員を務められるような組織づくりを～

西区の「農試公園町内会」は、設立してまだ2年ほどの新しい町内会。働き世代の世帯が多いことから、役員だけでなく会員にとっても負担が少なくなるような町内会運営を行っています。どのような工夫をしているのか、会長の山口さんにお話を伺いました。

会費徴収は委託で省力化

――会費の徴収を民間の集金代行事業者に委託しているそうですが、事業者はどのようなことを行っているのですか。

山口さん 「事業者には、各会員の口座からの会費の引き落としと、引き落としした会費の町内会口座への入金を依頼しています。会費の引き落としは年に1回で、1年分が4月に引き落とされます。全ての会員からこの方法で会費を徴収しています。」

――事業者に委託した利点を教えてください。

山口さん 「会員と役員のどちらにとっても事務の手間が省けて効率的です。」

各会員は、最初に口座登録の届出を行うだけで、その後の手続き等が不要になります。

会計担当の役員は、事業者から提供されるシステムを使って、年に1回、引き落とし金額や時期などの情報を更新して依頼するだけでよく、自宅で時間がある時に作業をすることができます。

委託料は、引き落とし1件につき150円ですが、適切な町内会費管理のための必要経費として町内会で負担しています。」

回覧板はLINEかメールで

――回覧板を電子化しているそうですが、その経緯を教えてください。

山口さん 「町内会設立時に、回覧は班ごとにやりやすい方法で行うこととして検討しました。その結果、全世帯が電子化に対応できたことから、紙媒体での回覧は行わず、LINEかメールで行うことになりました。」

――具体的にどのような手法で回覧していますか。

山口さん 「毎月2回、総務部の役員がまちづくりセンターに書類を取りに行き、自宅のスキナーを使って電子化し、各班長にグループLINEで送付します。各班長は、班内の会員の希望に応じて、そのデータをメールかLINEで送付しています。」

メールやLINEは、会員の皆さんが日常的に使用しているツールのため、使いにくいという声もなく円滑に町内会や地域の情報を届けることができます。

一度は役員を経験することで町内会への理解につなげる

――多くの町内会・自治会において、役員の担い手不足が課題と

なっていますが、農試公園町内会では輪番制を採用しているそうですね。

山口さん 「町内会は16班に分かれており、各班の中で班長は1年交代となっているのですが、その班長全員が何かしらの役員になるようにしています。役職は立候補で決め、立候補者がいない場合は話し合いで決定します。」

役員の免除規定はありません。1年交代なのでそこまで負担は大きくないと思っています。規定上は再任も可能ですが、各会員が一度は役員を経験することで町内会への理解度が高まることも期待し、1年交代としています。」

――誰でも役員を務められるよう、工夫していることはありますか。

山口さん 「役員業務の負担が軽減されるよう、役員間の情報共有や協議をオンラインで行っています。Googleドライブ内に資料をまとめておき、各自が時間のあるタイミングで確認して、意見をそのファイル内に入力する形式にしたことで、土日に集まって会議をすることもなく意見交換ができました。役員業務のマニュアルなどもGoogleドライブ内に保管して随時更新しているので、役員交代時の業務の引き継ぎも行いやすいと思います。」

また、町内会の活動を厳選し必要最低限にしていることも、負担軽減につながっています。令和3年度の町内会全体としての活動

は、秋の公園清掃のみでしたが、町内の全世帯に声を掛けて実施しており、直接顔を合わせて活動することで顔見知りになるため、コミュニケーションが不足しているという感覚はありません。」



▲毎年、町内会で清掃している公園
多くの地域住民が訪れる憩いの場です。

――働き世代が、限られた時間の中で、工夫しながら効率よく運営を行っている農試公園町内会。これらの取組は、若い世代が多く、新しい町内会だからできることだと思われるかもしれませんが、しかし、高齢化で担い手不足が進む中、これからは、働き世代でも無理なく活動や運営に携われる組織のあり方を考えることも必要になってくるのではないのでしょうか。

農試公園町内会

- 加入世帯数：173世帯
- 町内会費：月額600円/世帯
- 役員：16名

設立まもない町内会で、比較的若い世代が多い。

コラム

withコロナの町内会活動

コロナ禍で、思うように活動ができない状況が続いていますが、感染予防対策の工夫をしながら、少しずつ活動を再開している町内会・自治会もあります。ここでは、令和3年度に新たな子ども向けイベントに取り組んだ町内会の事例を紹介します。

富丘山の手町内会

～町内会を探検しながら楽しく知ろう!子ども向けスタンプラリー～

手稲区の富丘山の手町内会では、コロナ禍での夏休みを少しでも楽しんでもらいたいという思いから、子ども向けイベントとして、スタンプラリーを実施しました。

町内各所でクイズに答えてスタンプをもらう形式とし、「桜並木の桜の木は何本あるでしょう」「近くの公園によく来る動物はなに？」など、町内を探検して答えをみつけられるようなクイズを用意しました。密にならないよう、屋外で実施し、一斉スタートとせず時間内に子どもたちがそれぞれのペースでスタンプポイントを回るようにして、役員は各所で子どもたちの安全を見守りました。

また、町内会の防災倉庫に関するクイズの出題や、最後に町内会長からおみやげのお菓子や花火を手渡すことにより、防災意識の啓発や、町内会

役員を身近に感じてもらう工夫もしたそうです。

子どもたちに楽しく町内会について知ってもらえるこのような取組は、子どもたちが地域に愛着を持ち、これからの地域づくりの担い手として育ていくきっかけにもなるかもしれませんね。



▲スタンプラリーの様子
ゴールの防災倉庫にたどり着いた子どもたち。

富丘山の手町内会

- 加入世帯数：97世帯
- 町内会費：月額500円/世帯
- 役員：13名

戸建ての住宅が多く、高齢化率が高い。

素敵な

町内会・自治会の取組をお伝えする情報紙

SAPPORO マチトモ通信



このロゴマークは地域の安心と笑顔を支えている町内会をイメージして、札幌市が制作しました。



さっぽろ市
02-002-22-1010
R4-2-748